

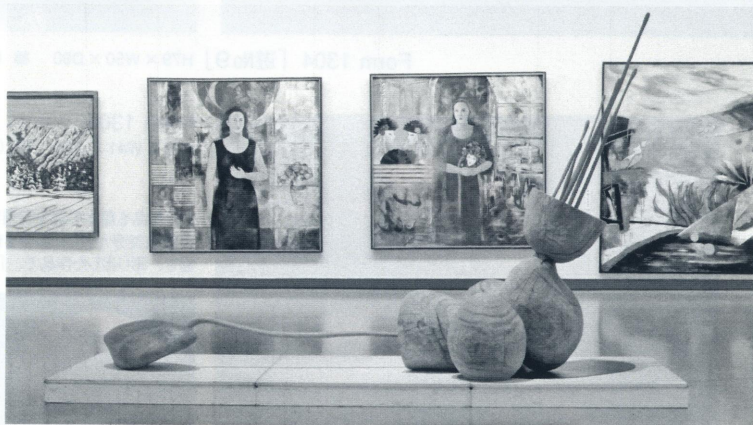
木彫による造形研究 2013

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*
(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」「そのものが創り出す空間」を使い構成している。



岩井義尚木彫展 2013 2013.9.07 ~ 9.16
名古屋芸術大学アールスペース T.A.G.IZUTO (名古屋市)

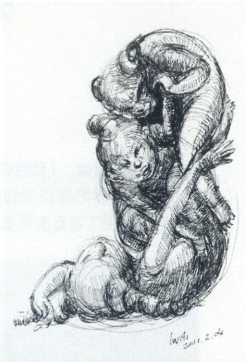


第36回 中部二元会展 2014 2014.3.25 ~ 3.30
愛知県美術館ギャラリー8F G1.G2.H.I 室 (名古屋市)

テーマ; 「動き」「流れ」「生」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物(人も含む)・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材(木)を彫ることにより形(Form)を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、塊の木の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出して表現した立体がある。

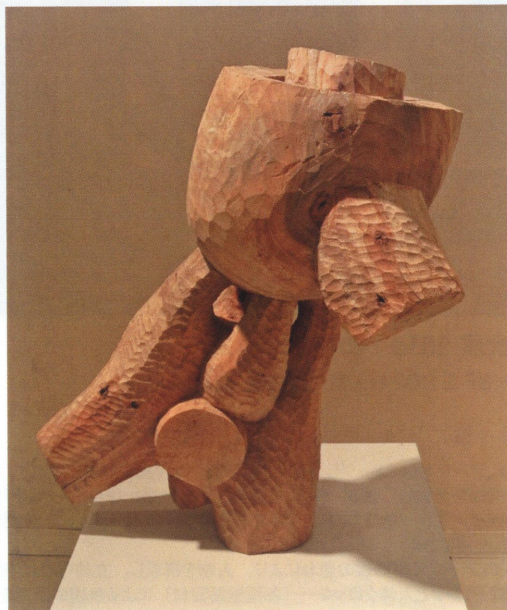
平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クローキー(各種描画素材)による表現の研究をする。



「遊」シリーズの9番目の作品
地上より数メートル上の二股に分かれた幹と枝のクス部分原木を見てからアイデアを考え始めた(2011年)。まず素材を90度回転させ、アイデアを上のドローイングに決め彫り始めると、裏側に洞(空)が出てきたが、そのまま残り正面性のある形で「躍動」を表現した。

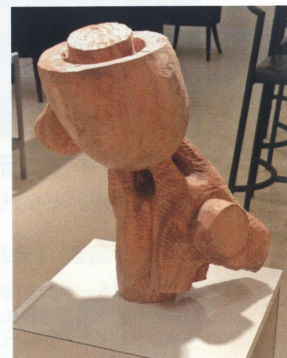


Form 1304 「遊No.9」 H79 × W50 × D80 樟(クス)



Form 1302
H50 × W41 × D26 樟(クス)

この作品も原木の形を利用したモノで、クスの木の複数枝分かれた部分を使いアイデアを考え、描き、彫り出した作品で、「動き」を表現した。





Form 1303は、アイデアを出す時に、この素材（キハダ）の枝分かれした部分の原木を逆にした時、ふと以前のアディアスケッチを思い出した。その以前のスケッチを基に、キハダの素材を見ながら再度アディアスケッチを行い、形を決定し制作、「流れ」を意識して表現した。
制作は、初めから仕上げまで、電気チェーンソーを使っている。

Form 1303

H157 × W92 × D30 木肌（キハダ）



Form 1307

H18 × W38 × D36
一位（イチイ）+ 樺（ケヤキ）

Form 1306

H22 × W39 × D42
一位（イチイ）+ 樺（ケヤキ）

Form 1306とForm 1307は、イチイ材のボディとケヤキの樺を使った小品で、基（モチーフ）は人体で、組み合わせることで「動き」を表現した。

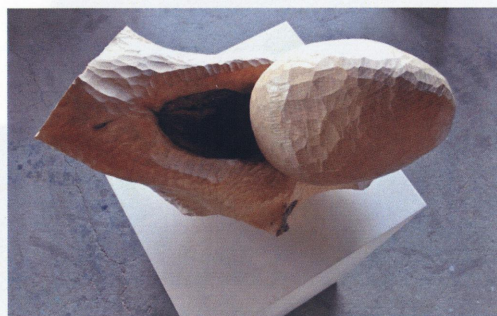
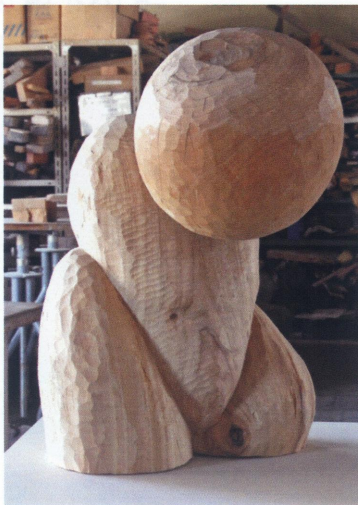




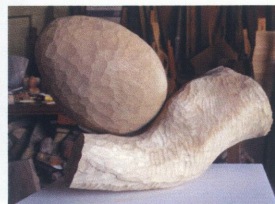
Form 1401 は、第36回中部二元会にて発表した作品で、種（ケヤキ材）から芽（クス材）→芽吹きをイメージし、時間の経過を一場面のストップモーション状態の構成により「生」を表現した。

Form 1401
H170 × W250 × D70 樟（クス）+ 樺（ケヤキ）

Form 1312
H46 × W28.5 × D30 樟（クス）



Form 1313
H31 × W40 × D31 楢（ナラ）+ 樟（クス）



Form 1312とForm 1313は、中部二元会選抜展に出品した作品で、Form 1312のモチーフは人体、そしてForm 1313のモチーフは「巣」で、木の塊から彫り出した部分をつなぎ「動き」を表現した。



Form 1311 H50 × W57 × D22 樟 (クス) + 樺 (ケヤキ)



Form 1308
H32 × W33 × D15 クス+神代タモ



Form 1309
H20 × W45 × D13
クス+イチイ+アフリカンバドック



Form 1310
H72.5 × W24 × D6
クリ+ケヤキ+イチイ

Form 1311 は、形の基を人体・それも服を着た人体が少し体を動かした形で、動とは逆のイメージを意識しながら「動き」を表現した。

Form 1308 は単体で斜め方向に、Form 1309 は、2 個の単体を組み合わせることで、水平方向の「緊張」を表現した。

Form 1310 は、壁に掛けることを考えアイディアスケッチを行い、単純な形の単体を組み合わせカラーージュすることで集中する動き「動」を表現した。



中部二元会研究会での
クロッキー&デッサン

描画素材として鉛筆、
チャコールペン、筆ペン
を使用している。

上の3点はペン&インクによるドローイング
(完成予想図)

